

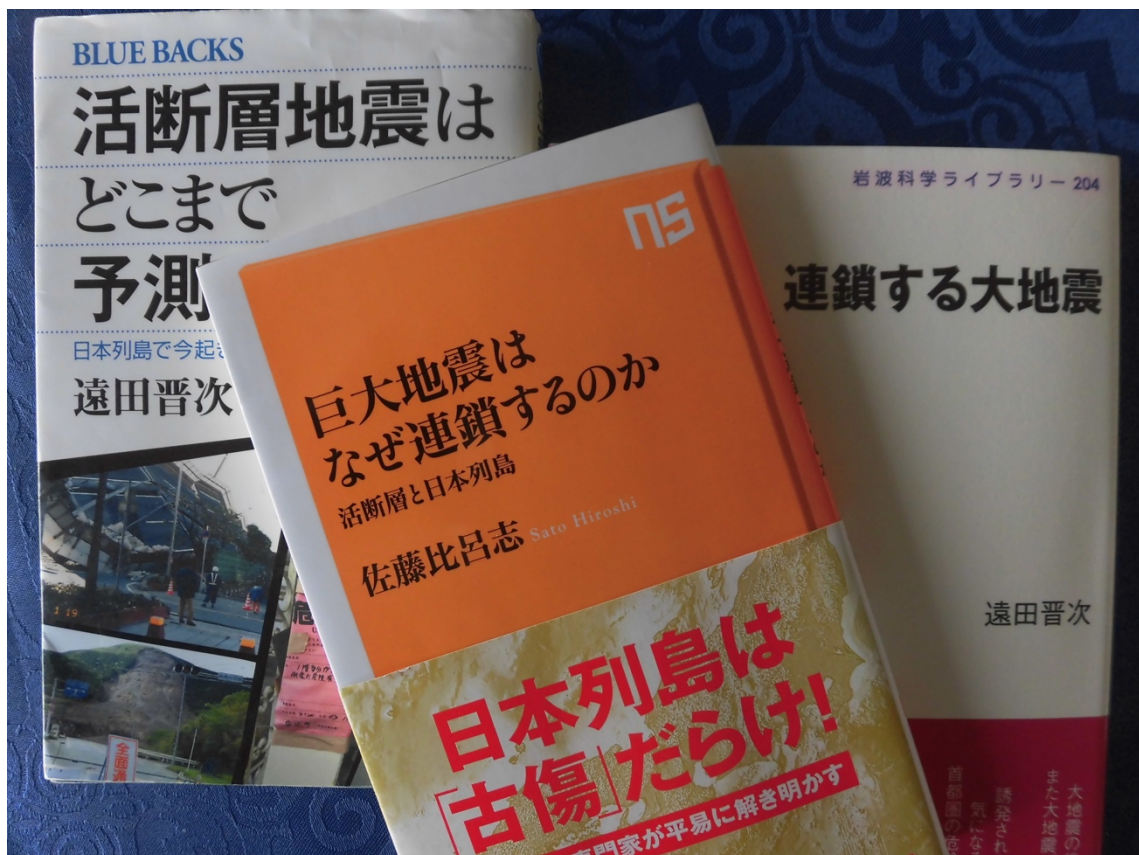
第42回 地震が連鎖するもの？

IT生

阪神大震災以降、地震の活動期に入ったといわれ、実際に日本列島の北から南まで多くの地震が起きてきた。これらの地震活動は、特に西日本においては、次ぎの南海トラフ地震を前に増えるとされる内陸地震であるとされている。

しかし、これらは一般的に近年の被害地震のことをさすのであり、微動の地震は、今こうしている間にも日本全国で起き続けている。いつからかというと、日本列島の形成期からであるとはいうまでもない。地震の活動が日本列島をつくってきたのであるからあたり前なのだが、そのことをつい忘れてしまう、だけなのだ。

ただ、気をつけなければいけないのは、被害が生じるほどの規模の地震（震度6以上）がおきれば、その周囲の地震活動に影響をあたえやすくなる。つまり、同規模の地震が連鎖する可能性が高くなるということだ。



地震の解析が進んだことで地震の連鎖理論（地震の姿）がみえてきた

新年早々、3年間の熊本地震が起きた北方で地震が続いている。24年前の阪神大震災の影響も淡路近傍で見られる。昨年6月の大阪北部地震の影響で、震源から20キロの地域、大阪中央部、京都南部～奈良にかけて地震が急増している。東日本大震災の影響が今でも、東日本で続いている。特に首都圏では地震の発生数が高止まりしているという。

こうしてみると、次ぎの地震はいつ起きるのかと恐れがちだが、そうではなく、被害地震が起きた周辺は、少なくとも、これまで以上に地震への備えを心がけようとするべきなのだ。「がん（癌）だ」というといまだに不治の病の代名詞のようにいわれるが、細胞の変異が原因である以上、誰でも因子をもっている。いつなるのかと恐れおののいても始まらない。神のみぞ知るである。だが、喫煙など生活習慣が影響することは知られており、それらに気をつけるだけでもリスクは減る。地震に対する耐震化、備蓄などと同じことなのである。

知るべきことを知り、備えるべきことを心がける。リスク管理の基本であろう。

(平成31年1月)